

「川越市幼児教育振興審議会」が開かれました

1 日時 令和6年1月17日（水） 10:00～11:30

2 場所 川越市立教育センター 203研修室

3 <出席委員>

駒井仁美、吉田由子、大澤奈々、横山敦子、遠山知子、大西麗衣子、山崎真之、山村穂高

<事務局職員> 川越市教育委員会学校教育部教育指導課 こども未来部保育課

4 会議次第

(1) 開 会

(2) あいさつ

(3) 議 事 会長 山村穂高 氏

①第46回幼保小連絡懇談会について

②川越市幼保小連携モデル指定研究について

③架け橋期カリキュラム調査研究事業について

④今後の連携の在り方について

(4) その他

(5) 閉 会

5 審議内容及び意見の概要

(1) 第46回幼保小連絡懇談会について

- ・ 全員異議なく原案どおり承認

(2) 川越市幼保小連携モデル指定研究について

(3) 架け橋期カリキュラム調査研究事業について

※関連する内容のため、(2)と(3)を続けて審議

- ・ 4園が2年間取り組んだが、今後については、再考を願いたいとのことと理解している。例えば、現在ある組織を利用した連携の在り方等が考えられる。
- ・ 研究に取り組んでいただいた先生方の負担はあるかと思う。
- ・ 日常の業務を行う中で、研究を成立させていくことは難しい。連携が負担を感じるものになってしまうのは、よくない考える。
- ・ 神明町保育園、山田小学校には次年度ご負担をおかけするが、可能な中で取り組んでいただきたいと考えている。

(4) 今後の連携の在り方について

- ・ 7について確認していきたいことがある。①モデル指定研究は終了する②架け橋期カリキュラムは継続するが、市立保育園1園と市立小学校1校で検証するということか。
- ・ 自由記述がいいのか。ある程度ねらいを絞ったほうがいいのか。まず連携という言葉の理解が曖昧である。川越市ときも学びのプロセスを参考に、連携を具体的に示す設問でないと、回答が難しいのではないか。あえて、曖昧に聞くのであれば、「どのような連携が望ましいと考えますか。」などの設問を加えればいいのか。
- ・ 育てたい子供への共通理解はそれぞれがもっているのではないか。求めているの

は、どのように幼保小がお互いの理解を進めるために、負担なく取り組めるのかというような方法が知りたいのではないかな。

- ・ 自由記述であれば、例を示しておくことで、記述を促させる方法がよくある。
- ・ 成果発表会時のアンケートであるのであれば、「発表を受けて、各園や各小学校で取り組める、または生かせることはなんですか。」など、これまでの研究を生かす視点で考えてもらうことが大切ではないかな。成果発表会に対して意見をしっかりと聞くことが大切ではないかな。川越市幼保小連携指定研究と幼保小連絡懇談会という大きな取組が2つあるので、その点をしっかりと整理しないと今後の在り方も検討できないのではないかな。
- ・ アンケートを何のためにとって、その集計をもとにどう進んでいきたいのかをはっきりさせることが必要ではないかな。
- ・ 今できること具体例について、提案し、ご意見を聞く必要があるのではないかな。
- ・ 発表会のアンケートとは、別に実施するべきなのではないかな。全保育園、幼稚園、小学校に聞くべきではないかな。
- ・ 設問6については、特に趣旨やイメージが分かりにくい。
- ・ 統一した連携日については、幼保側はまったくイメージできない、または違ったイメージをもってしまうかもしれない。
- ・ 今回のアンケートは成果発表会に限定したアンケートにしたものがないのではないかな。「特に印象に残った発表は何か。」「取り組める内容にはどんなものがあるか。」など、研究の成果が残るようなアンケートにして、研究に携わった園・校への御礼の意味も含まれるようなアンケートがないのではないかな。
- ・ 連携の規模よりも、連携の内容について具体的に出していくことが必要である。
- ・ カリキュラムを作成する中で、情報交換と生活科の取組が中心であったと思う。小学校へ招待する取組などでは、学校によって全園を対象とするや入学する児童のみを対象とするなど違いがある。取組が広まると、日の設定が難しくなるなどの課題が出てくると思うので、統一日などはその次の課題を解決するための方策になってくるのではないかな。今回のアンケートは、やはり分けて考える方がいいのではないかな。
- ・ 情報共有の必要性について、現場のアンケートでは回答が多く見られる。それがうまくいかないことが一番の課題である。
- ・ 連携日の意見があったので、保護者の協力を加味すると、オープンスクール日等として日が決まると訪問の可能性が広がるのではないかな。
- ・ 私学フェアなど大きな会場で行い、ブース形式で情報共有を行う方法もある。市としてそのようなアイデアもあるのではないかな。
- ・ 情報共有の内容に応じて、場の設定は工夫が必要になる。指定日に小学校を訪れて行う進学時の情報共有だけでも大変である。
- ・ 進学時の情報交換についても、小学校によって対応はそれぞれである。
- ・ 2月の入学前の情報交換も大切だが、4月・5月など入学後の情報交換も大切である。
- ・ よりよい方策のアイデアを求めていることが、アンケートの一番の趣旨なのではないかな。
- ・ 欠席委員の意見も含めた協議ができたと思う。
- ・ アンケートの内容については事務局に一任して案を確認する形でよいのではないかな。
- ・ 2案修正アンケートを提示していただき、確認を委員が行う。内容は事務局に本日の意見を集約する形で一任することで決定していく。